

常光寺々報

2022. 2

春彼岸会法要

三月十九日(日)

朝十時～十二時

昼一時半～二時半

武蔵野大学 名誉教授

講師 田中 教照 先生

※お経本とお念珠をお持ちください。
マスクの着用もお願いいたします。
昼食にコンビニおにぎりの販売を
いたします(1個百円)

花まつり

四月二日(日) 十時半～

お釈迦様のお誕生日を、お祝いしま
しよう。

コロナが世間を騒がすようになって
三年が過ぎました。五月からはインフ
ルエンザ並みの対応に変わるとい
うことで、ようやく落ち着いてご聴聞
いただけるようになるかと安堵して
おります。

ご講師の田中教照先生は、何
度もご出講していただいております。
先生は武蔵野大学名誉教授、前武蔵野
大学学院長、元武蔵野女子学院学
院長であり、深い御教義を初めて
仏法を聞く若者にもわかりやすく
お話していただけます。ご門徒の
皆様には「歌を唄われる先生」と
覚えていらっしゃる方もおられる
と思います。

どうぞ、一たび一たびのご縁を
初事のご縁、今生最後のご縁と
大切にされ、ご聴聞いただきます
よう、ご案内申し上げます。

お知らせ

● 護持講をお納めいただいた方へ返
礼品としてお線香をお渡しして
おりましたが、諸事情により、今
あるものが無くなりしだい、返
礼品は終了とさせていただきます。

● 毎年、門徒講・護持講の決算報告書
を郵送させていただきましたが、ペ
ーパーレス化の流れもあり、こ
ちらも取り止めとさせていただきます。
お彼岸法要の日には掲示させて
いただきます。紙でお求めの方は
お持ち帰りも用意しております。
おまいりの際にご覧ください。ご
連絡いただければ郵送対応も
いたします。

左のページは、今年のご本山の
報恩講に際して出された、ご門
主からご門徒の皆さまへの御
消息(お手紙)です。

新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)

についての消息

本年三月には、「親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗「八百年慶讃法要」という記念すべきご勝縁をお迎えいたします。このたびの慶讃法要は、親鸞聖人の立教開宗のご恩に深く感謝し、同じお念仏の道を歩む者同士が、あらためて同信の喜びを分かち合うためのご法要です。また、これを機縁として、特に若い人やこれまで仏教や浄土真宗に親しみのなかった人など、一人でも多くの方々に浄土真宗とご縁を結んでいただきたいと思えます。

伝道教団を標榜する私たちにとって、真実信心を正しく、わかりやすく伝えることが大切であることは申すまでもありませんが、そのためには時代状況や人々の意識に応じた伝道方法を工夫し、伝わるものにしていかなければなりません。このような願いをこめ、令和三年二〇二一年の立教開宗記念法要において、親鸞聖人の生き方に学び、次の世代の方々に「法義がわかりやすく伝わるよう、その肝要「浄土真宗のみ教え」として示し、ともに唱和していただきたい旨を申し述べました。

浄土真宗では蓮如上人の時代から、自身のご法義の受けとめを表出するために『領解文』が用いられてきました。そこには「信心正因・称名報恩」などご法義の肝要が、当時の一般の人々にも理解できるように簡潔に、また平易な言葉で記されており、領解出言の果たす役割は、今日でも決して小さくありません。

しかしながら、時代の推移とともに、『領解文』の理解における平易さという面が、徐々に希薄になってきたことも否めません。したがって、これから先、この『領解文』の精神を受け継ぎつつ、念仏者として領解すべきことを正しく、わかりやすい言葉で表現し、またこれを拝読、唱和することでご法義の肝要が正確に伝わるような、いわゆる 現代版の「領解文」というべきものが必要になってきます。そこでこのたび、「浄土真宗のみ教え」に師徳への感謝の念を加え、ここに新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)として示します。

南無阿彌陀仏

「われにまかせよそのまます」の弥陀のよび声

私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ
「そのまます」が 弥陀のよび声
ありがとつ といた代いて
この愚身をまかすこのままで
救い取られる 自然の浄土

仏恩報謝の お念仏
これもひとえに
宗祖親鸞聖人と

法灯を伝承された 歴代宗王の
尊いお導きに よるものです

み教えを依りどころに生きる者 となり

少しずつ われの心を 離れます

生かされていることに 感謝して

むさぼり いかりに 流されず

穏やかな顔と 優しい言葉

喜びも 悲しみも 分かち合い

日々に 精一杯 つとめます

この新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)を僧俗を問わず多くの方々に、さまざまなお機会でご拝読、唱和いただき、み教えの肝要が広く、また次の世代に確実に伝わることを切に願っております。

令和五年二〇二三年 一月十六日

龍谷門主 釋 専如